

令和4年度の飼育繁殖事業及びファウンダーの確保について

(8月26日オガサワラカワラヒワ生息域外保全に関する検討打合せ)

資料3-3

開催者 : 東京都小笠原支庁
開催日 : 令和4年8月26日 17時~20時 オンライン会議
出席者 : 森林総研川上委員、恩賜上野動物園、Islands care、小笠原自然文化研究所、東京都
主旨 : 生息域内の個体群状況が良くないため、繁殖成功及び繁殖技術の確立が求められる。繁殖を目指すために飼育環境パターン、必要なファウンダー数と捕獲場所を議論

① 飼育環境パターン、必要なファウンダー数

主な議論：○現状施設の2ペアは安定して飼育できており、8/26現在、1ペアに繁殖行動（さえずり）が確認され秋繁殖の可能性が出てきたため、1ペアは刺激せずに現状施設内で、繁殖成功を目指す。
○動物園関係者から近縁種カワラヒワの繁殖動向から、雨風が当たる環境で飼育した方が繁殖確率が高まるというご助言があり、現状施設の他に雨風が当たる飼育繁殖施設を設ける必要がある。
○パターンとして、屋内のほか、屋外と半屋外（バックヤード機能併設）を試すのが良い。
○動物園飼育下の場合、繁殖有効ペアの割合は約5割、繁殖成功率は約5割であるため、4ペア×0.5×0.5=1ペア繁殖成功
○繁殖に参加していない若鳥の捕獲を優先する。
○若鳥が捕獲できない場合は、2ペア4羽の確保を目指し、秋繁殖に参加していない成鳥に限りファウンダーとする。

■ 合意事項

- 繁殖を目指すために4ペアを確保する必要があり、現状2ペアに加え、今年度2ペア4羽の捕獲を目指す。
- 繁殖行動が確認されている1ペア以外の3ペアは屋外、半屋外で次春繁殖期までに飼育繁殖施設を構築し、繁殖を目指す。

② ファウンダー捕獲場所

主な議論：○母島を優先するが、母島に飛来がない場合は、属島で捕獲する。
○属島は、移送の難易度から平島を優先とする。
○平島で捕獲できなかった場合は姉島・向島での捕獲を検討する。
○生息域内の環境改善を目的にネズミ駆除を実施している向島から秋繁殖に参加している成鳥は捕獲しない。

■ 合意事項

- 捕獲場所の優先順位は母島 → 平島 → 姉島・向島
- 母島で飛来が確認できた場合は、随時行程を変更し、母島で捕獲する。